

## CONTENTS

- ① 日本語スピーチ大会
- ② にほんごのへや
- ③ 委員会活動報告
- ④ インタビュー
- ⑤ リレーコラム
- ⑥ イベントスケジュール



### この一枚！

本番5分前。緊張の瞬間



今年で12回目を迎えた、外国人による日本語スピーチ大会が、2月8日に開催されました。テーマは「私にとっての宝物」。当日は大雪にも関わらず、多くの来場者があり、出場者を応援していました。最優秀賞のさいたま市長賞を受賞したダルウィさんは、自身の「婚活」について、面白おかしく発表し、受賞後は、「昨日一緒に徹夜してくれた友達みなさんに、ありがとうと伝えたい」とコメントしました。各受賞結果はP8をご覧ください。

## 特集

# 日本語教室「にほんごのへや」 ～教えるスタッフも日々勉強です！～

「今日、クラスメートが『キマツシケン(期末試験)デ、アカチャッタ』と言いました。どういうことですか?」。市内の高校に留学している学習者から、会うなり突然こんな質問をされて、一瞬絶句してしまう日本語ボランティアスタッフ。「にほんごのへや」夜間一般コースで時折見られる光景です。

「にほんごのへや」は毎週金曜日に、「午前保育付コース」、「子どもコース」、「夜間一般コース」(以上、浦和会場)、そして「午前保育付大宮コース」(大宮会場)の4つのコースを実施しています。コースによって学習者にも特徴が見られ、午前保育付コースは、浦和会場・大宮会場ともに小さいお子さんを連れた主婦層、子どもコースは日本語だけでなく、学校での勉強も見てもらいたい小中学生、そして夜間一般コースは高校生以上の若者が中心になって来ています。

日本に来てまだ2週間しか経ってなくて、日本語であいさつするのがやっとという超初心者から、もう長年さいたま市に暮らしていて、日常会話は問題ないけれども漢字がほとんど読めない主婦の方など、日本語習得のレベルもさまざまです。

学習者は予約する必要がないので、毎回どんな学習者が来られるのか予想がつかませんし、その日の天候や、年末年始、学校の試験期間などのシーズンによっても、来られる学習者の数は大きく変化します。教える側のボランティアスタッフは、相手の日本語レベルに合わせて、その都度、教え方も変えなければならぬので、臨機応変な対応が必要になります。とくに若

者たちは、辞書に載っていない新しい言葉やスラングを耳にする機会も多いので、それを理解して説明するためには、スタッフ側も日々ちまたで使われている日本語に注意していなければなりません。学習者にとってだけでなく、教えるスタッフの身にとっても、この「にほんごのへや」は大切な学習の場になっています。

目下、各コースの共通の悩みとなっているのは、毎回の学習者数が減ってきていること。学習が必要な市内在住外国人は多いはずなので、宣伝が足りないのかもしれない。皆さんの周りに、日本語を(無償で)勉強したいという方がいらっしゃるようでしたら、ぜひ「にほんごのへや」のことを紹介してあげてください。

(なお、冒頭の学習者の質問で「アカル」というのは、「赤点を取る」という意味だそうです。)



1月11日に行われたお正月おたのしみ会での一コマ

## Let's ボランティア

第12回外国人によるスピーチ大会で活躍したボランティアの数は実行委員も合わせて32名。ベテランから初めての方まで、また、年齢も様々です。今回は、ボランティア初心者のお二人に、感想を伺いました。



ただいま準備中!

### 自分の知らない視点を知る

外国の人と交流して、見聞を広めたいと思っていたところ、今回のスピーチ大会のボランティアの募集があったので、参加しました。スピーチに参加したみなさんが、熱心に勉強していて驚きました。

スピーチを聞いて、自分の知らなかった視点を知ることができ、感銘を受けました。いろんな話を聞けたり、様々な人と出会え、人とのつながりができて、ボランティアに参加して、良かったと思っています。

ユース国際ボランティア Kさん



時には力仕事も!



今年で 3 回目を迎えた次世代養成セミナー。同世代の海外出身者や留学経験者の話を聞いたり、参加者同士で話し合う事によって、世界には様々な文化があることを若い世代に肌で感じてほしいと始めました。企画や、当日の運営は、「次世代」であるユース国際ボランティアが中心となって行いました。

**自分の言葉で伝える ～異文化体験の発表～**

セミナーでは、まず「私を感じた異文化」をテーマに、日本や外国出身の 6 名の高校生、大学生が発表しました。高校生の六田くんは、アメリカに留学して、緊張しながらも楽しみ、積極的にコミュニケーションを図る事が大切だと気づいた、と発表しました。また、大学生のハキムさんは、日本で身に付いた「おじぎ」の習慣が、母国マレーシアでも、無意識に出てしまい、おかしい人だと思われてしまったと自身の経験を語りました。

**世界の中で生きる事とは ～ゲストトーク～**

アフリカのマラウィに青年海外協力隊の理数科教師隊員（現 数学教育／理科教育）として赴いていた、JICA 埼玉デスク国際協力推進委員 中野貴之氏の初めての海外経験は東ティモール。幸せの定義が「戦争がないこと」と言う現地の人々の考え方は、それまでの自分の価値観を大きく覆すものであり、新たな物事の捉え方を得た異文化体験だったそうです。また戦争の相手国を恨んでいないのか、という質問に「恨みを持ち続けると未来を失ってしまう」と答えた現地の人々の言葉はいまでも心に残っているそうです。

世界の中で生きる事は「目の前の相手と向き合う事であり、まず相手の話を聞く事、その上で自分の意見を伝える事が大切だ」と、後輩達にメッセージを伝えました。

**国際シェアハウスに住もう ～ワールドカフェ～**

少人数のグループに分かれ、セッションごとに席を変えて話し合う、ワールドカフェのメインテーマは「国際シェアハウス」。「行ってみたい国の人に成りきろう」、「パーティーを盛り上げるために何が必要?」「お互いの文化や習慣を尊重しながら、気持ちよく生活するためにはどうしたら良い?」を各セッションのテーマに、和やかな雰囲気の中で、話し合いました。

多国籍なシェアハウス内での公用語は、日本語にするが、お礼の言葉はお互いの言語を使う。食事は当番制にして、お互いの国の料理を食べながら交流を深める。など、具体的なアイデアが出て、大いに盛り上がりました。

参加者の 1 人は、「自分の意見を言うだけでなく、他人の意見を聞き入れる事も大切だと強く感じました」と、晴れやかな笑顔で感想を述べました。



記録的な大雪の中、お疲れさまでした



出場者との打ち合わせ

**元気をもらいたい!**

中国に留学していて、中国語を忘れたくないと、中国語おしゃべりサロンに参加したことがきっかけで、国際交流センターを知りました。ボランティアは自分が誰かに貢献するものだと思っていたのですが、私がいみんなから元気をもらいたいと今回、ボランティアに参加しました。元気をもらえて、とても楽しかったです。 イベントボランティア Sさん

## ぷらっとサロンとサロンスタッフ

浦和駅東口パルコの上、コムナーレ9階にある国際交流センター（IEC）のサロン（通称ぷらっとサロン）には、図書コーナーをはじめ、他国の文化紹介関連の展示、各種イベントの案内、情報交換ボードなどがあるほか、様々な催しや、情報交換活動が行われています。また、月曜日から木曜日には、外国人向け簡易生活相談を担当している15名のボランティアサロンスタッフが交代で常駐し、慣れない日本での生活に困った外国人の相談相手を務めています。子供の教育、ボランティアによる日本語教室の案内、外国語のわかるお医者様の紹介など、生活上多岐にわたる相談に対応しています。その他、一般の方のために、IECについてのさまざまなご質問対応、サロン内の案内、イベントの紹介等もサロンスタッフの重要な仕事です。サロンにお出かけの際は気軽にお声をかけてください。



外国語の通じる病院はどこですか？

### [会員往来]

#### 砂漠の上の大都市リマ

亀井 玲子

2010年4月6日、生まれて初めてペルーの首都、リマに足を踏み入れました。ヒューストンで乗換え1回、約24時間かけて到着した人生初の海外生活の地は、それまでの私のペルーのイメージには全く無かった「砂漠の上に作られた都市」でした。

ペルーの人口は日本と同じくらい、面積は日本の約3倍で、海岸地域・山岳地域・密林地帯の豊かな国土や多様な文化など、魅力でいっぱいの国です。3年間家族と共に生活をしたリマは、海岸地域の砂漠の上につくられた都市のため、とにかく埃っぽいのです。窓を開けていると床はザラザラ、カーテンは真っ黒、外では大量の車が巻き起こす土埃。また、



自宅近くの公園で

年間を通してほとんど雨が降らないため、街中にある公園の芝生や花壇、街路樹などには毎日のように水が与えられ、作業服を着た人たちが、それらの「乾いた土地に植えられた」植物の手入れをしている姿が常に見られます。



リマ市中心部

土地は乾いていても人がドライということは一切なく、大変な思いもしましたが、それ以上にうれしい体験もありました。特に、先に移住した日本人や彼らの子孫の日系人の活躍のおかげで、優しくしてもらったことが多々あり、親日の空気を肌で感じました。

遠いけれど、近い国。お米が主食だし生の魚もタコも食べる。身長もあまり高なくて、顔つきもことなく日本人ぽい人がいるし、赤ちゃんに蒙古斑があります。クンビアというペルー音楽の一つは、昭和の歌謡曲をほうふつとさせるメロディーで、とてもおもしろいと思いました。すっかり南米好きになってしまった今は、1人でも多くの日本人に、ペルーのことを知ってほしいと思っています。

## ✿ サロン研修会 駅弁マイスター三浦由紀江氏を迎えて

12月19日、サロンスタッフの総会が実施されました。日ごろは交代で活動をしているために、めったに全員が顔を合わせることがなく、名前を知っていても顔を見たことがないといった人が大半です。しかし、同じ活動をしているせいか、旧知のようにすぐに打ち解け、お互いに情報交換を始めるなど、大変和やかな雰囲気です、AT HOME な総会になりました。

引き続き行われたサロン研修会では、講師に日本レストランエンタプライズ「駅弁マイスター」の三浦由紀江氏を招き、「楽しくするための秘訣」と題する講演を全員で聴講し、「来訪者(お客様)に接する方法」、「日頃のボランティア活動をどのようにして楽しくするか」について大変参考になるお話を聞くことができました。



「おいしい」話に聞き手も大満足！

## ✿ 着物で初詣 着物を着るって大変

1月5日、氷川の杜文化館で、毎年恒例の在住外国人の「着物着付け体験会」が催され、多くの参加希望者の中から、抽選で選ばれた14カ国41名の外国人が参加しました。着物の着付け、武蔵一宮氷川神社への初詣、そして茶道体験。参加者にとっては初めて経験することばかりでしたが、大変楽しい時間をすごしてもらえたようです。体験会終了時間になって、「せっかくきれいに着付けしてもらったのに、着替えたくない」という声が多く上がりました。それでも体験会終了後は全員笑顔で、「とても楽しかった」とのお礼を残して帰って行きました。朝早くから夕暮れ時まで、ボランティアとして、懸命に対応してきた総勢48名のスタッフもこの最後の笑顔で一日の疲れが癒されました。



日本の伝統美で華やかに

## ✿ ボランティア養成講座 楽しくなければボランティアじゃない!!

11月30日、さいたま市市民活動サポートセンター南ラウンジで、第1回ボランティア養成講座「さあ、はじめよう！ボランティア」を開催しました。多文化共生マネージャーとして、災害時多言語支援センターの設営運営等でも活躍している高橋伸行氏（船橋市職員）を講師に迎え、災害時の外国人支援から見えるボランティアの役割、日頃の関係性の大切さを学びました。「日本人にとってあたり前のことも外国人にとっては大きな壁だと気づいた」、「グループワークを通して災害時の心構え・対応方法をみなで実感することができた」など、これからの国際交流を考えるきづきとなる講座でした。また、当日を含め3日間、展示「さ

いたま市×国際×ボランティア」を実施、IECの活動やさいたま市内の国際交流とボランティア活動も紹介しました。



あなたの「できる」を見つけよう

# 大好き！さいたま

## ～ “やさしさの国” から来た微笑みの架け橋～

毎号、さいたま市在住在勤の外国人にインタビューするこのコラム。テーマは「大好き！さいたま」。今回は、ミャンマー出身の藤江ミィさんにお話をうかがいました。

藤江ミィさんは、東南アジアのミャンマー出身で、現在さいたま市にお住まい。小さい頃から化学の研究者になることを夢見ていたミィさん。1990年にお姉さんと来日、埼玉大学大学院で博士号を取得しました。その後、いったん日本を離れ、2年間シンガポールにある日本企業の研究所で超精密機器に関する研究に従事しました。

その間、大学院時代から交際をしていたご主人との結婚を決めたことをきっかけに日本に戻りました。なれそめを伺ったところ「誠実で思いやりのあるところ」と微笑みがこぼれました。

結婚後しばらく、ご主人のバイク店を手伝っていましたが、10年前に知人の酒販売の仕事を引き継いだことをきっかけに、酒販免許を取得し、ミャンマービールをはじめとする酒類の販売を開始し、その他貿易に関する事業を多角的に展開されています。

さいたま市ではどんな暮らしぶりなのか、まず食べ物について聞いてみました。好き嫌いはあまりないが刺身は苦手とのこと。料理はミャンマー時代では勉強、

研究が忙しく習う暇がなく、日本に来てから覚えたのだとか。そのためレパートリーは日本料理が多いそう。今では気軽に近所のスーパーにも出かけ、料理の腕もあがり、2人のカワイイお子さんにも「お母さんの料理大好き！」と大人気。まさに“おふくろの味”。

そして、今気になることは、仕事が忙しくて、なかなか子供の相手をしてあげられないこと。そのため、ちょっとした暇を見つけては近所の公園に行ったり、大宮駅前のデパートで楽しく食事をしたりして、少しでも家族でいる時間を大切にしているそうです。

「さいたま市は緑が多くて、土の香りがするところが好き」と話すミィさん。さいたま市は大都会でありながら、故郷ヤン

ゴンのように、周辺には緑も多く、大きな川もあり、とても暮らしやすい環境です、と話されました。

“やさしさ”の表情のなかに目標に向かって進む強い意志が感じられるミィさん、さいたま市で大きな夢を実現されることを期待しています。（久保田公一）



## 国際友好フェア 2014

日時 2014年5月3日(土・祝)・4日(日・祝)  
9:00～16:00 (4日は15:00まで)

場所 市民の森・見沼グリーンセンター (JR土呂駅から徒歩8分)

### 出演団体募集中！

詳しくはHPでご確認ください。  
また、準備の段階からお手伝いしていただくボランティアに興味がある方はお問い合わせください。



## 試される地域の涵養力

なかなか長期の休暇が取れず近年、マイパスポートの活用機会は限られている。しかし機会があれば、海外それも特にアジアを見てみたいといつも感じている。

パラオやカンボジアなど再訪したい国も多い。今、未踏の地で関心を寄せている地域がある。中華人民共和国の西域とトルコ、イラク、シリアの山岳地域だ。いずれの地域も埼玉と多少のかかわりがある。

中華人民共和国の西域に多く住むウイグル人のコミュニティが、埼玉県中央部のとある駅周辺に存在していることはあまりメディアで紹介されたことがない。そのコミュニティの方々が週に一度、ある公共施設で情報交流会を開いている。彼らになぜ、埼玉の中央部に集中しているのか聞いたところ、その地域にある大学にウイグル族の若者が留学し、卒業後も近くに居を構えたのが始まりらしい。親類縁者を頼ってこの地に集まり、ウイグル人としての生活様式、文化を守りながら共生を図っているという。首都圏内では最大のコミュニティと言うが、これは確認しようがない。

一方川口市や蕨市には、国家を持たない最大の民族と言われるクルド人のコミュニティがある。地域の公園で、地域の市民も参加した民族的なお祭りが開催されるなど、埼玉県民とのネットワークも広がりつつある。県南に住むクルド人は政治的迫害を受けて日本にやって来た人が多い。ふるさとともトルコ、イラク、イラン、シリアなど広域。イラク北部の山岳地域では石油が産出し、急速な経済成長が続くが、それぞれの国の思惑の中で民族的に揺れる歴史の中にある。



蕨市の公園で開かれたクルド人の春まつりネブロス  
(クルディスタン&日本友好協会HPより)

ウイグル、クルドの両民族とも、彼らの生活の中心にあるのはイスラム教。しかしながら、埼玉の地でまだイスラム教への理解が十分とはいえない。宗教的な集会在、米国911テロ直後は厳しい監視下におかれていた時期もある。彼らと話していると、けして民族の独立を声高に叫んではおらず、今の埼玉の家族の生活と、ふるさとの残る親族、縁者の安寧を望んでいる以外にない。21世紀の地球は、国家より民族、といううねりがここ埼玉の地でも動き始めている。

埼玉で暮らす彼らの幸せは、民族的アイデンティティが認められ、それが他民族からも尊敬され、引き継いだ価値や文化を異国にあっても継続していけること。とかく均一な国と民族の関係をイメージしがちな日本人だが、これからの「多文化共生」の背骨は、民族というキーワードにある。

最近のメディア界は、「ご当地グルメ」や「ゆるキャラ」のように地方発信情報価値が急上昇中だ。均一だと思っていた日本でさえ、豊かな多様性を秘めている。まして21世紀は地球の時代。さらなる多様性を謳歌できる地域の涵養力が求められよう。

国家で人や文化をひとくくりしていないか、隣人への関心度を高めていきたいと感じている。

(株)埼玉新聞社代表取締役社長 小川秀樹



中国西部地域に多く住むウイグル人  
(中国撮影芸術出版社「中国各民族」より)



# IEC イベントスケジュール

2014  
Feb.

2014  
Apr.

## ●にほんごのへや 春期子どもコース

4月1日(火)、2日(水) 14:00~15:30

場所: 国際交流センター 多目的室

参加費: 無料

申込: 不要

## ●はじめましての会

4月19日(土) 13:30~15:30

場所: 浦和コミュニティセンター  
第15集会室(コムナーレ9階)

定員: 100名(先着順)

参加費: 300円(小学生以下は無料)

申込方法: 次の情報をお知らせください。

- ①名前(ふりがな) ②電話番号
- ③E-mail または FAX ④国籍

## ●国際友好フェア 2014

5月3日(土・祝)、4日(日・祝) 9:00~16:00

(4日は15:00まで) 詳細は本誌P.6

## ●ホストファミリー懇親会

4月5日(土) 11:00~13:00

場所: 国際交流センター 多目的室

詳細は IEC までお問い合わせください。

## ぷらっとサロンスケジュール

おしゃべりサロン 4月のスケジュールは後日HPでご確認ください。

英語	13:30-15:00	3/8(土)	4/12(土)
		3/22(土)	4/26(土)

中国語	14:00-15:30	3/4(火)	4/1(火)
	10:30-12:00	3/20(木)	4/17(木)
		3/22(土)	4/26(土)

韓国語	13:30-15:00	3/13(木)	4/10(木)
		3/27(木)	4/24(木)

スペイン語	10:30-12:00	3/4(火)	4/1(火)
		3/19(水)	4/16(水)

ロシア語	16:30-18:00	3/1(土)	4/5(土)
		3/15(土)	4/19(土)

日本語	13:00-15:00	3/19(水)	4/16(水)
-----	-------------	---------	---------

にほんごのへや 毎週金曜日(第5週はお休み)

ぷらっとあそぼうドットg 10:00-12:00

3/8(土) 「ひなまつり」

わいわいサロン 10:00-12:00

3/11(火) 3/18(火) 3/25(火)

※わいわいサロン、ぷらっとあそぼうドットgは今年度で定期開催を一旦お休みします。

## 第12回外国人による日本語スピーチ大会受賞者一覧

賞名	氏名 出身	タイトル
さいたま市長賞	ディンプル ダルウィ インド	結婚
さいたま市議会議長賞	ワッサラー ディ シルワ スリランカ	私にとって 一番大事な宝物
さいたま観光国際協会賞	周亚琼(シュウ アキョウ) 中国	会えてよかった
架け橋となるで賞	ジャルガルフー ヒシグジャルガル モンゴル	忘れられない なみだ
夢を持ち続けま賞	ネサ フォジラテウン バングラデシュ	夢
好きにしま賞	ヌル アリファ ビンティ マッド ユス マレーシア	好きにしま
素敵な出会いで賞	ランディカ ジャヤミニ スリランカ	私の人生の宝物
時間こそ宝物でしょう	ケイリー タン 香港	時間
先生はすばらしいで賞	ピユミカ アレンス スリランカ	経験こそ 人生の宝物
モンゴルに行ってみたで賞	オユンエルデネ ガンバートル モンゴル	モンゴルの 「ゲル」

## 国際友好フェア 2014 出展団体募集中!!



募集期間: 3月1日~3月28日 17:00 必着

募集内容: 市民国際交流活動団体による活動内容紹介ブース

参加者の出身国の民族料理の紹介ブース  
各国物産品の展示・販売ブース

出展資格: 参加者が市内在住・在勤・在学者

申込方法: IECのHPから申込用紙をダウンロード  
のうえ、E-mail、FAX、郵便にて送付



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)  
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町 11-1 コムナーレ 9F

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL http://www.stib.jp/kokusai

開館時間: 午前9時~午後8時

休館日: 毎週日曜日、5月3・4日、年末年始(12/29~1/3)

